

# せい わ

庭畑に  
根づく高菜  
育ちよく  
広き葉っぱは  
緑つや増す

信恵

☆発行所☆  
府中静和寮  
広島県府中市土生町1636番地の1  
TEL (0847) 41-2375  
FAX (0847) 41-8620  
☆発行人☆  
寮長 大橋 亘

# もつと知りたいたい

# 団塊の世代

と施設生活に分かれて生活を営む、「その時々の様な尊厳を支えよう」と言うのか、早急に研究しなければ、問題、課題は多岐に渡ると想定しなければ……?

保証される《終の住処》として存続しようとするならば、終末期ケアへの取り組みは重要課題であり、現に施設で生活している人々を含めての重要にして早急に

として、各地域のニーズを明確に掘り起こして、夫々に特異性（個性）をどう出すかが求められることが「今や普通の世界で有る」ことを再認識することが肝要ではないだろうか。今一度「地域づくりはまちづくり」をテーマとする「地域基盤テールづくり」を再開すべきではないだろうか。終わりに「惜しむらくは」

平成十五年六月二十六日  
厚生労働省高齢者介護研究会が二十五年の高齢者介護」報告書を出した。その時、老人福祉関係者の間に幾つかの動揺が走った。それは、小規模・多機能化の推進、施設設備の個室化、ユニット化と自宅でも施設でもない「第三類型」の一種改革論的アドバルーンであった。このとき中村局長の「施設解体」発言が問題化した。いち速く情報をキヤッチしたサービス提供サイドから情報として、これは「施設不要論」だというアナウンスが走った。それは老人福祉の長い歴史の中で、関係者が考えもしなかったアナウンスであった。その極言も、新年を迎えた今日、やや落ち着きを見せられている。ただ注意すべきは、福祉業界は、長年にわたり福祉問題の難関は「国や行政が個別にセットして指導してくれる」という「待ちの姿勢」に慣れ親しんできた。だが、そんな時代はとつとに終息して、「既に天地返し」をしていることに気づくべきだと自らに言い聞かせている。

先に述べた「解体論」不  
要論」の  
余波は、  
未だにあ  
る。しか  
し物は考  
えようだ。  
介護保険制度スタート三年  
を経過して、今多角的に過  
去データが分  
析されて幾多  
の制度稼働のな  
かで生じた課題、  
問題が見えてき  
つつある。これか  
ら現状を詳細に  
「鳥観図化」して  
みると、例えば既  
設特養ホームには、  
多様な思想・経済力・  
人生観・健康度をも  
つた人が集い生活を営  
んでいる。それをどう  
やって一気に解体出来  
るのか首を傾げなくなる。  
「それは時間をかけて」  
と言うのなら、その取り  
組みの過程で生じる例えば  
職員定数換算等の問題はど  
うするのか、リストラの横  
文字で押し切るのか。スケ  
ールメリットに拘れば、定  
員増または現在定員を維持  
するだけでも、ユニット化  
すれば施設によっては、土

地買収も有り得る。  
あるデータによると、全  
国施設現在定員総数に  
対して、約八十%を超  
える人々が個室以外  
を利用していているとの  
報告をしている。更  
にいわゆる団塊の世  
代が約十年後に高  
齢者層に加わるこ  
とは確実だ。

最近、財務省では、平成  
十六年度から利用者負担割  
合を二・三割引き上げそれ  
に合わせて「既設施設の施  
設ホテルコスト、食費等を  
介護報酬給付からの除外  
説」等を出している。この  
ことは、報告書のなかでも  
記載されている。この課題  
は即ち低所得者層の対応策  
に及ぶ。これもあるデータ  
によると、旧措置入所者、  
新規入所者合わせて、現在  
特養ホームの、介護保険第  
一段階者、第二段階者層を  
加えてみると低所得対象者  
は、平均八十%に近くなっ  
ていると報告している。こ  
の辺りの対応などは早急に  
表に出して議論すべきだ。

また、最近入所者の重度  
化が言われ、このたびの報  
告書でも「今後施設の役割  
はより重度の要介護者を受  
け入れ、適切なケアを提供  
するという機能がますます  
重要になっていく」と報告  
している。今後の特養ホー  
ムが、安全・安心・安楽が

を付けて敢えて一言。この  
度の報告書の随所に「高齢  
者の尊厳を支える……」が使  
われていたが、「二十五年  
の高齢者の尊厳」が私に  
は十分読み取れなかったこ  
とが残念である。  
苦しいときの神頼みと、  
三冊の辞書を紐解いてみた。  
その解釈は「たつとくおご  
そか、又その威光」「たつ  
とく、おごそか、重々しく  
いかめしい」「神や神聖な  
ものの持つ、威厳（人に尊  
厳の気持ちを引きさせるよ  
うな、りっぱで重みのあるよ  
うす）」とあった。

# 課題すべき対応

訳がないことは当然だ。だ  
が、十年後には、在宅生活

ここでいう団  
塊の世代とは、  
昭和二十二年  
同二十四年ま  
でに生まれた  
人（第一次ベ  
ビーブーム）  
で、その数  
は約八百万  
人と言わ  
れている。  
その人達  
全てが  
新型特  
養を利  
用する

このことは、周囲からの  
要望・要請も然る事ながら  
「法人経営診療所」として  
より充実した施設設備を設  
立することが強く要望され  
ていることに繋がる。  
介護保険制度は、原則地  
域性を大事にすべきもので  
あり、各々の地域が互いに  
地域差が有ることを、当然

この解釈を読んで益々混  
迷したことは事実で、この  
件を今少し具体化して頂き  
たかった。この部分が今後  
重要なポイントになるので  
はと感じている。  
《拙速には気を使い、巧速  
には陥らぬよう配慮し、着  
実に前へ進まねばなるま  
い。》  
(大橋 亘)



### 支援センター

## 新年あけ 情報のキャッチとパイプ役

ましておめでとうございます。と言いついては、利用者者のみなさんが必要以上に不安を抱かれぬように、分かり易く説明していきパイプ役になっていきたいと思います。

またこういった情報については、利用者のみなさんが必要以上に不安を抱かれぬように、分かり易く説明していきパイプ役になっていきたいと思います。

# 新年の抱負

本格的な改革は一年先になりませんが、今年のうちから、おそろくは様々な情報が飛び交うことと思われまふので、私たち支援センターと在宅支援事務所は、常にアンテナをはって情報をキャッチしていきと思っています。

またこういった情報については、利用者のみなさんが必要以上に不安を抱かれぬように、分かり易く説明していきパイプ役になっていきたいと思います。

### 通所介護事業所

今年こそは何か良い事がありそうなきも、また、そうあってほしいと思う。一年の区切り、年の始めということもあり新しい気持ちにさせてくれることと思ひますが、皆様の

かがでしようか。

通所介護事業所府中静和寮も、デイサービスセンターの開設からはや十年が到来しつづあります。

そして、昨年の五月より週七日、毎日実施することとなり、この間、平均三十余名の方々が利用されています。

## 見ザル・聞カザル・言フザルにならない様に

大変うれしきことであり、励まされることでもありまふ。これからも、利用者の方々の気持ちに答えていくために、これまで以上のご指導・支援を賜りたいと思ひます。

### 調理

新年あけましておめでとうございます。

私たち調理一同は、毎日の食作りの中で利用者の方々のみなさまの「おいしかったよ」「ありがとう」の言葉を励みに毎日頑張っています。

## 「おいしかったよ」の言葉を励みに

今年も、毎日の食作りに加えて、季節に応じた行事食や喫茶やバイキングやレストランなど、また地域や家族の方たちとの交流であるビアガーデンや園遊会を楽しんでもらえようなきも、利用者の方々の気持ちに答えていくために、これまで以上のご指導・支援を賜りたいと思ひます。

お願い申し上げます。

御座居ます。

私達は、昨年の十二月十三日に《ご存知でしょうか？ 門松の切り出し、踏み出す日です》反省と二〇〇四年に向けての思いを話しました。

振り返ってみると、お年寄りの状態も変化し、いろんな出来事がありました。毎日の生活の中で、単に仕事ということではなく、お年寄りから学ぶこと、教わることも多くあります。

## その人らしい生活援助

人はその人の歩んできた人生によって、人生観・生活観が異なり難しいこととありますが、その人らしい生活を送ることができるとは援助していきことが目標であり課題であると思ひます。チー

### 事務所

ムワークと他職種との連携をもち努力していきたいと思ひます。

措置から契約へと変わった今日、事務所として意識改革は必要となつてくる。言うまでもなく事務所とは施設の窓口であり、顔となることは当然のこと、対応ひとつでその良し悪しが決まってしまう。例えば、電話

対応や窓口での接客対応などでは、顕著に表れる。いくら介護サービスの質が高かろうが、入り口の階段で不快感を与えてしまふと、それだけでその施設のイメージが固定化されてしまふ。

### 電話対応を一流ホテル並に

このことは、他の業種でも同じことが言えるのだが、こと措置時代から経営している介護施設などでは、この分野は弱く思ひます。

この苦手分野をどこまで克服し、施設のイメージアップを図れるかが今後の事務所としての課題でもある。今更ながら、第一弾としては「電話対応マニュアル」による一流ホテル並みの対応を心

がける。誰もが経験してあると思われが半端でなくすばらしい。逆にここまで懇切丁寧な対応をされると、電話を掛けた本人が恐縮してしまうのではなかるうかというくらい、丁寧だ。しかし、一流企業の電話対応は懇切丁寧だが、恐縮してしまふような対応は行わない。要点を明確にし、こちらの意向を素直に察知して、電話対応が終わる。

この爽快感を当施設としてもご利用者などへ提供したいと思ひます。サービスの質は、中々表面化できないことが多いのですが「変わったな」と即結果がでる電話対応を今年

にしていきたいと思ひます。そして、もし不快感を与えた時にはご遠慮なくご指導をお願いしたいと思ひます。

### 養護

養護老人ホームでは五十名の方が日々の生活を送られています。年齢の幅も広く、親子ほどの年齢差があります。五十名の方が、五十通りの考え

### 看 護 師

明けましておめでとうございます。

を持ち、五十通りの生活で人生を歩んでこられ、静寂寮で出会い、今の生活を送られています。集団生活であるがゆえの悩みや、ぶつかり合いもあります。でも集団生活であるがゆえの、良い点もあると思うのです。その良い点を一つでも多く引き出していきたくと思っています。

## 皆さんと一緒に色々な企画を!

新年を迎えるにあたり、希望・抱負を伺ったところ「健康で暮らしたい」「元気でいたい」「病気をしないように」「いつまでも自分の事は自分でしたい」「できる事は自分でしたい」「等、健康という願いが多かったように思います。そして「自分の事は自分でしたい、できる事は自分でしたい」という思いも、とても大切だと思えます。その思いがなかったら、生きていく意欲も湧いてこないと思うからです。でも皆さんは身体面や健康面・生活面に不安を抱き、入所されているわけですから、ご自分でできるところまでは頑張ってください、でき

ないところをお手伝いするという姿勢で、皆さんと共に歩んでいきたいと思えます。

皆さんにはびっくりするような力があります。暑い夏祭りや踊りやダンス、応援を見事に成功させた度胸、何日も前から繰り返し練習した熱心さ、カラオケの陽気な歌声、ゲームで思わずほれる笑顔、元気な声、手芸や色塗り等の細かな作業を続ける辛抱強さ等に、すばらしい力があります。その力を大切にして、今年もつとその力を発揮できるように、皆さんと一緒に色々な企画を考えていきたいと思っていますのでどうぞよろしく願います。

## きく寮

新しい年の幕開け、皆様いかがお過ごしでしょうか。私共きく寮は昨年にお正月気分も何処へやら。こんな事では御利用者の方々に穏かに暮らして頂ける訳がないですよ。そこで、今年のお祭りの目標は「落ち着いた和やかな雰囲気

## 気作り」とさせて頂きました

「静寂寮内の交通の要所であり、毎日フロア外からも大勢の方々が訪れて下さいます。そんな方々にも快適な場所として感じてもらいたい」「子供に買物に行きたい」等、いろいろな返事が返ってきました。皆さんの今年の願いの多くは、本当にささやかなもので私達にとっては、その気になればすぐにでも実現できます。しかし、お年寄りにとっては、自分一人ではそうたやすく実現できるものではありません。すべて

## 落ち着いたある和やかな雰囲気作りを!

希望に添ったサービスを提供させて頂ける様に、スタッフ十一名が個々の力を発揮し、心身共に健やかに、そして笑顔絶やさず(時と場合にも異なります)頑張りたいと思っております。

## あやめ寮

あやめ寮の入所者二十八名と職員一〇名は、それぞれ新たな気持ちで新年を迎えました。「今年はどうなりたいですか?」と入所者の人に尋ねてみました。「そうじゃなく」と少し考えて、「健康に過ごしたい」「歩けるようになりたい」「子供に会いたい」「天満屋に買物に行きたい」等、いろいろな返事が返ってきました。皆さんの今年の願いの多くは、本当にささやかなもので私達にとっては、その気になればすぐにでも実現できます。しかし、お年寄りにとっては、自分一人ではそうたやすく実現できるものではありません。すべて

## コミュニケーションを大切に!

明けておめでとうございませう。あやめ寮の入所者二十八名と職員一〇名は、それぞれ新たな気持ちで新年を迎えました。「今年はどうなりたいですか?」と入所者の人に尋ねてみました。「そうじゃなく」と少し考えて、「健康に過ごしたい」「歩けるようになりたい」「子供に会いたい」「天満屋に買物に行きたい」等、いろいろな返事が返ってきました。皆さんの今年の願いの多くは、本当にささやかなもので私達にとっては、その気になればすぐにでも実現できます。しかし、お年寄りにとっては、自分一人ではそうたやすく実現できるものではありません。すべて

# どうなる日本 少子化問題を考える(MRON)

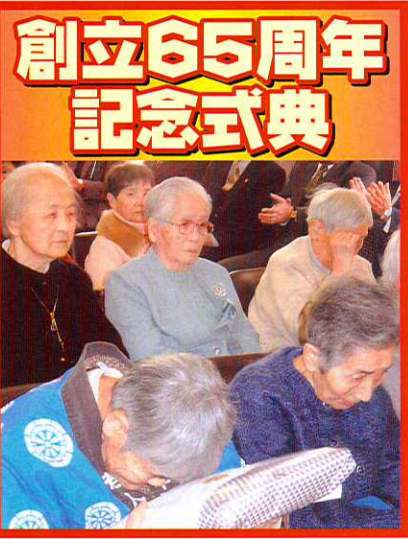
入所者の皆さん、こんな私たちですが、今年も頑張りますので、よろしくお願い致します。

今回は少子化がもたらす問題について考えてみます。国は健康保険制度、介護保険制度などのいろいろな社会保障制度を実施していますが少子化によってもっとも深刻な打撃を被るのが厚生年金制度であると言われていています。現在の年金制度は二十歳から保険料を支払い六十五歳になったら年金を受け取る仕組みになっています。一九九五年には一人の受給者(すなわち高齢者を約五人で支えています)が、少子化によって高齢者が増えて若年層が減るわけですから、当然若年層に負担が重たくなつて、将来的に二〇一〇年には二・八人で一人の高齢者を支えなければいけなくなるそうです。世の中の不景気で所得が減ると保険料収入が減ると保険料収入が減り、厚生年金制度そのものへの信頼感が薄らいで保険料未払いの人がどんどん増えていきます。国は保険料アップ、受給者年齢の引き上げ、支給額の引き下げ等誰でも考えそうな小手先操作で乗り切ろうとしています。本当に大丈夫でしょうか? 旧厚生省は大事な我々の年金積立金から大金を使つて「グリーンピア」という保養施設を作りましたが、全部赤字経営でとうとう事業から撤退することになりました。誰かがこの大失政の責任を取つたという話は寡聞にして聞きません。この間誰かが書いていましたが、社会保障費が公共投資より少ないのは日本くらいのものでさうです。少子化は経済活動にも大きな影響を及ぼします。労働力人口が減り、労働力の確保が困難になります。二〇一〇年頃から労働力人口が三〇〇万人くらい

不足し始めるとの計算もあります。就職難もあと数年で自然解消するかも知れませんが、外国人労働者の増加、貯蓄率の低下、投資の抑制も懸念されます。少子化は子供自身への影響も大きいことを忘れてはいけません。子供の数が少なくなっても、その分だけ手厚く子育てをすることができ、子供の質は却って向上すると考えていますが、現実はどうでしょうか? 大勢の兄弟・友達の中で心身ともに鍛えられることがなくなった結果、自分と他人との距離感がつかめなくなり、他人の痛みがわからなくなりました。が、まんざることが出来なくなり、すぐ暴発してしまいます。少年犯罪の低年齢化にも驚くばかりです。国はエンゼルプランを策定して色々な施策を打ち出していますが、決定的なものはないようです。子供を生まない選択も尊重しつつ、安心して生んで育てられる環境を整備して支援していく実効性のある仕組みを早急に作るにきています。

(奥野 府夫)





# 創立65周年 記念式典

## 永年在寮者表彰

- 十五年 和田 初子様
- 豊田タカコ様

## 永年勤続表彰二十年

- 若井 安子様

- 十年 瀬尾キミエ様
- 山本ハツエ様
- 根来 静子様
- 五年 阿賀 貞子様
- 今金 カヨ子様
- 星野 知子様
- 宮原ラトヨ様
- 高橋 操様

## 我が家の介護

退職して八ヶ月余り。長年、仕事をしてきた介護に今、家族として日々向き合っている。仕事として取り組んではいたが、やはり他人事と思っていた部分も有った。二十四時間介護を必要とする人との生活は大変だと痛感している。人一倍

## 新人の決意

静和寮に就職して、九ヶ月余りがたちましたが、だいぶ仕事にも慣れて来たか

(高山 順子)

元気で働き、辛抱強かった義母が日に日にわがままになり、今までなら決して口にしなかったで有ろう事を言ったりしたりと、変化を事実として認め、避けて通る事ができなくなつた。そんな義母を受け入れていくつもりではあるが、正直言つて嫌になる事がある。ゴールの見えない長いレースが介護、でも今スタートしたところ。無理をせず、肩肘はず家族だけで支えきれない時は、迷わず人の手を借りるつもりである。介護は十人十色、我が家の介護があつてもいいかなと思つている。

(高山 順子)

などと言えるくらいになりました。(まだまだ覚えなければならぬ仕事は沢山あります。)

介護を通して利用者の方と関わる中で「ああ、こういう対応の仕方があるのか」「こういう場合どういう声掛けが適切なのか」など日々考えさせられていきます。出勤してきたときに利用者の方から笑顔で挨拶を交わされると「今日も一日頑張ろう」と元気を貰つたような思いになります。

忙しい時などは、なかなか笑顔で接するのが難しいですが、常に利用者の方に耳を傾け、声なき声にも気付けてあげられるよう心掛けたいです。また、介護の技術もまだまだ未熟です。利用者一人ひとりに合った介護を、常に考えて自分をスキルアップさせて行きたいです。まだ若さしかとりの無い私ですが、どうぞよろしくおねがいします。

(平田 真紗子)

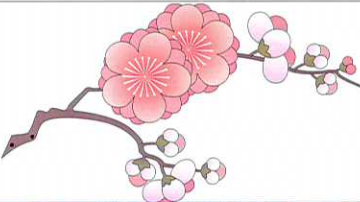
## せいわほのぼの日記 「インターネット」



## 静和寮のおせち料理



- 静和寮のおせち作りは、十二月二十八日頃から始まります。日々の業務をこなしながら、おせちの仕込みも一緒にしていき、十二月三十一日に仕上げ、重箱に詰めて元旦にお出ししていきます。二十八日から三十一日までの手順は次のとおりです。
- (二十八日) 数の子の塩出し、味付けをする。
- (二十九日) 黒豆を炊く。菊花かぶを作る。おせち煮物の材料を飾り切りにし炊く。
- (三十日) きんとんを作る。
- (三十一日) ワインかんを作る。
- ゆず釜を作る。
- 金柑を仕上げる。
- きんとんを仕上げる。
- ブリの照り焼き、松風焼きを作る。
- えびを酒蒸しにする。
- おせちの煮物を炊く。
- 酢ごぼうを炊く。
- 五色なますを作る。



## 編集後記

新年を迎えると、今年も良い年で有りますように祈ります。「笑う門には福来る」と申しますが静和寮の中にも笑いや笑顔を呼び込みたいものです。『せいわ』の軌跡をたどりながら新しい皆様の様子を紹介して行きたいと思えます。

今年は新年に当って抱負を各部署から出してもうりました。いかがでしたでしょうか。

昨年は「せいわ」編集に多大なご協力をいただきました。誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い致します。

編集委員一同